

資料2

情報統合管理基盤WG 協議会報告資料

第9回あきたスマートシティ・プロジェクト推進協議会

場所:秋田市にぎわい交流館研修室1、2

平成25年3月19日(火)

基盤5施設の電力使用量（5月～1月）

情報統合管理基盤構築事業でセンサーを設置した5施設について、各施設のエネルギー使用削減状況について報告する。

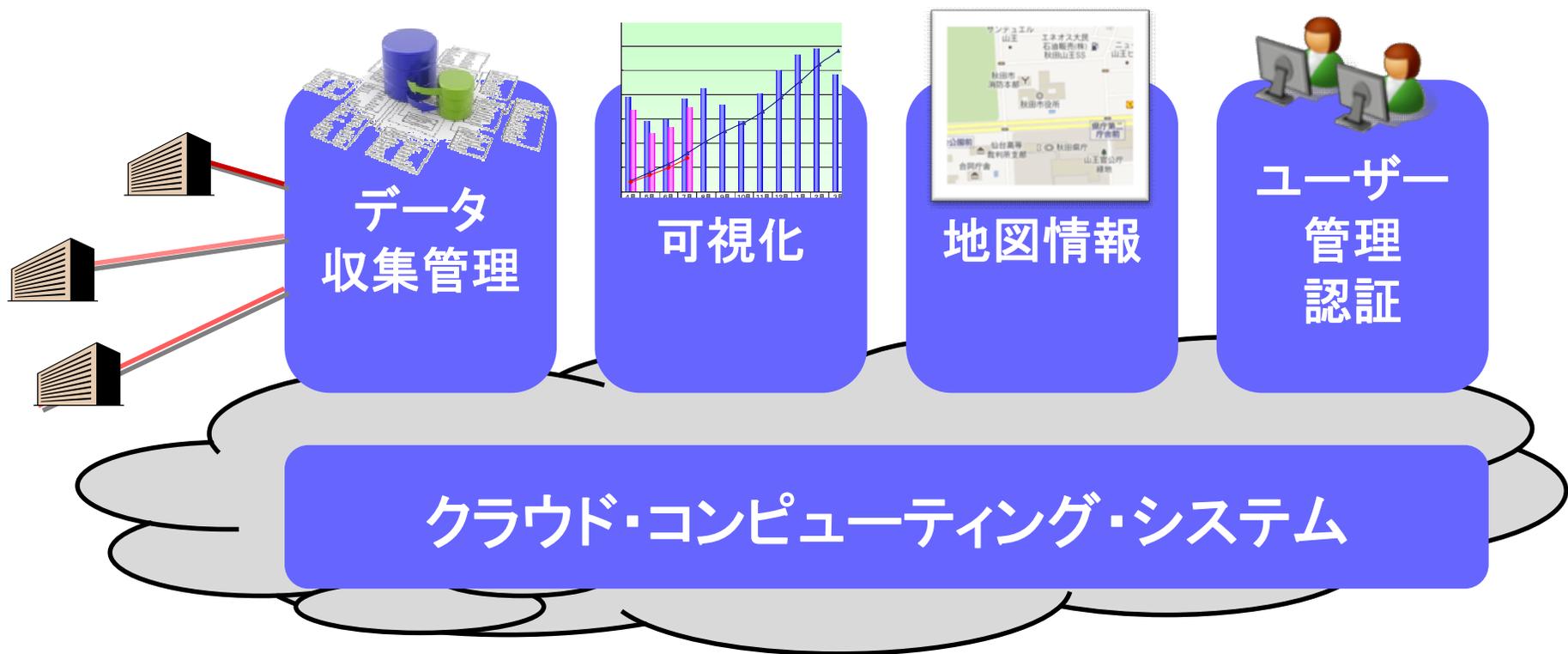
（老人福祉センター・サンライフ秋田・保健センターは電力一括契約のため、まとめて表記）

単位はkWh	老人福祉センター サンライフ秋田 保健センター	まんたらめ	秋田テルサ	秋田美術工芸 短期大学	合計
平成20年度	468,027	331,451	873,798	855,890	2,529,166
平成21年度	467,014	263,254	862,611	864,560	2,457,439
平成22年度	471,446	338,869	886,505	914,950	2,611,770
平成23年度	403,450	306,421	719,540	732,570	2,161,981
平成24年度	406,774	247,043	729,708	771,010	2,154,535
過去3年平均 (H20/10～H23/9)	455,522	294,301	840,200	851,103	2,441,126
過去3年平均比	10.7%	16.1%	13.2%	9.4%	11.7%
平成23年度比	-0.8%	19.4%	-1.4%	-5.2%	0.3%

過去3年の電力消費量平均に対し、各施設とも1割程度の削減効果がでており、震災の影響によって大きく下がった昨年に対しても、全体で0.3%の微減という成果が出ている。

現在の基盤構成イメージ

情報統合管理基盤は、現在エネルギー削減のためのシステムとして利用しているが、基盤のもつ各機能は、ほかの用途にも利用可能なものがあると考えており、今後、情報統合管理基盤を活用していくための機能拡張と適用範囲についてWG内で検討をおこなった。

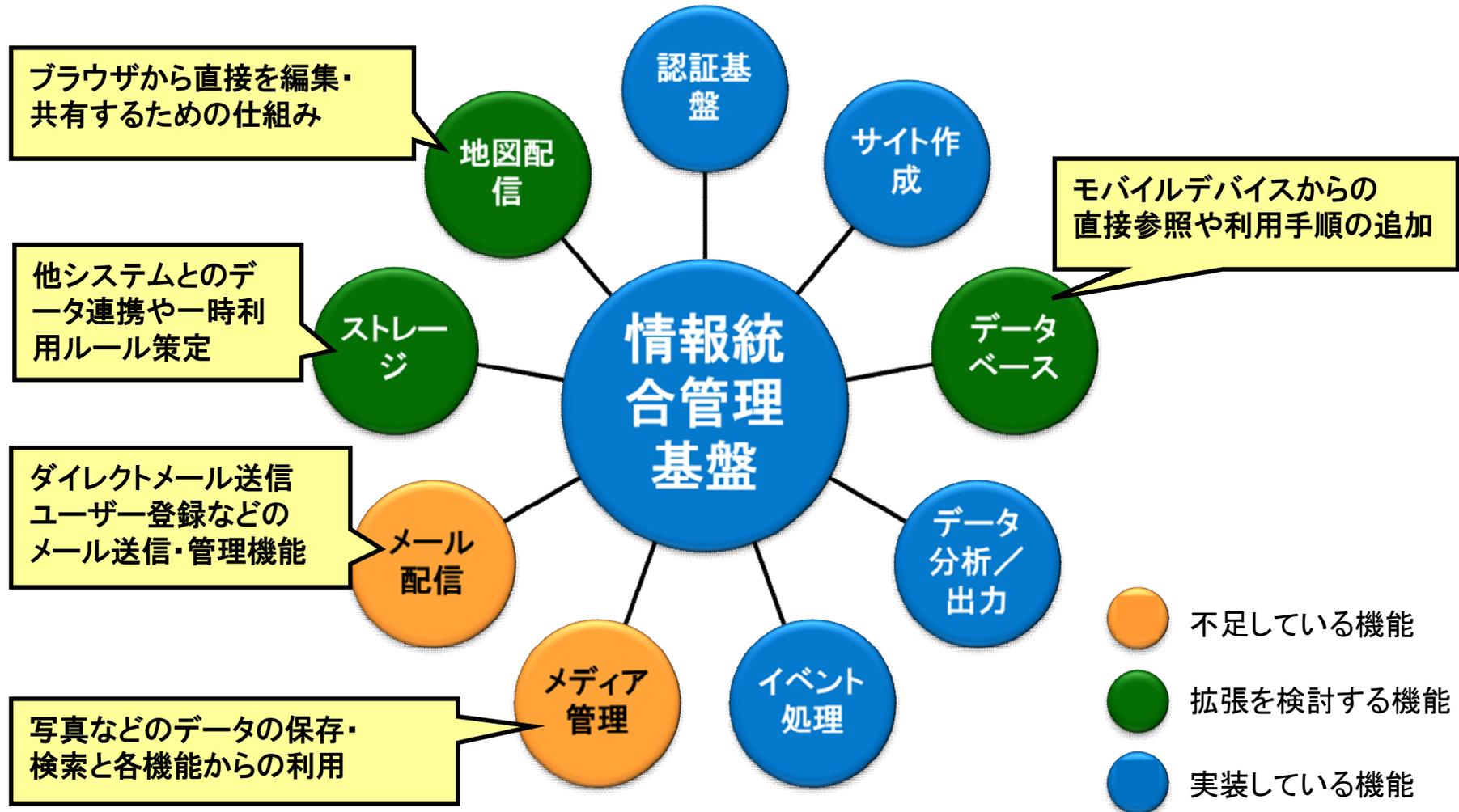


① スマートシティ各プロジェクトでの基盤利用案

分野	検討機能・拡張内容
エネルギー分野	施設電力コントロール 冷暖房・照明などのリモート制御 発電エネルギーの情報収集・可視化 市民へのエネルギー使用状況の発信
資産管理	秋田市有施設の施設情報管理 施設内設備の状況・保全管理 施設図面の管理
低炭素モビリティ	公用車予約・配車管理 サイクルシェア管理
グリーンツーリズム	イベント写真データ管理・データ提供 観光マップ提供 イベントアンケート収集・ダイレクトメール、メールマガジン配信
防災	災害地図情報提供 避難場所の可視化・災害備蓄管理などの可視化

② 基盤利用推進のための機能拡張の検討

各プロジェクトで基盤をさらに活用するための機能拡張について検討



③ 既存のスマートシティプロジェクト以外の基盤利用検討

基盤の機能については、プロジェクト以外でも利用可能な分野があると考えている。
。基盤の一部機能を流用して業務支援システムとしての展開を検討。

以下は基盤の機能を流用し構築できるシステムの一例である。
実現性については引き続き、WG内で検討をおこなう

住民訪問支援サービス

地図データに対象住民情報を登録し、モバイル端末で地図情報に表示することで訪問者の移動支援と、モバイル端末から入力された情報を収集し可視化する

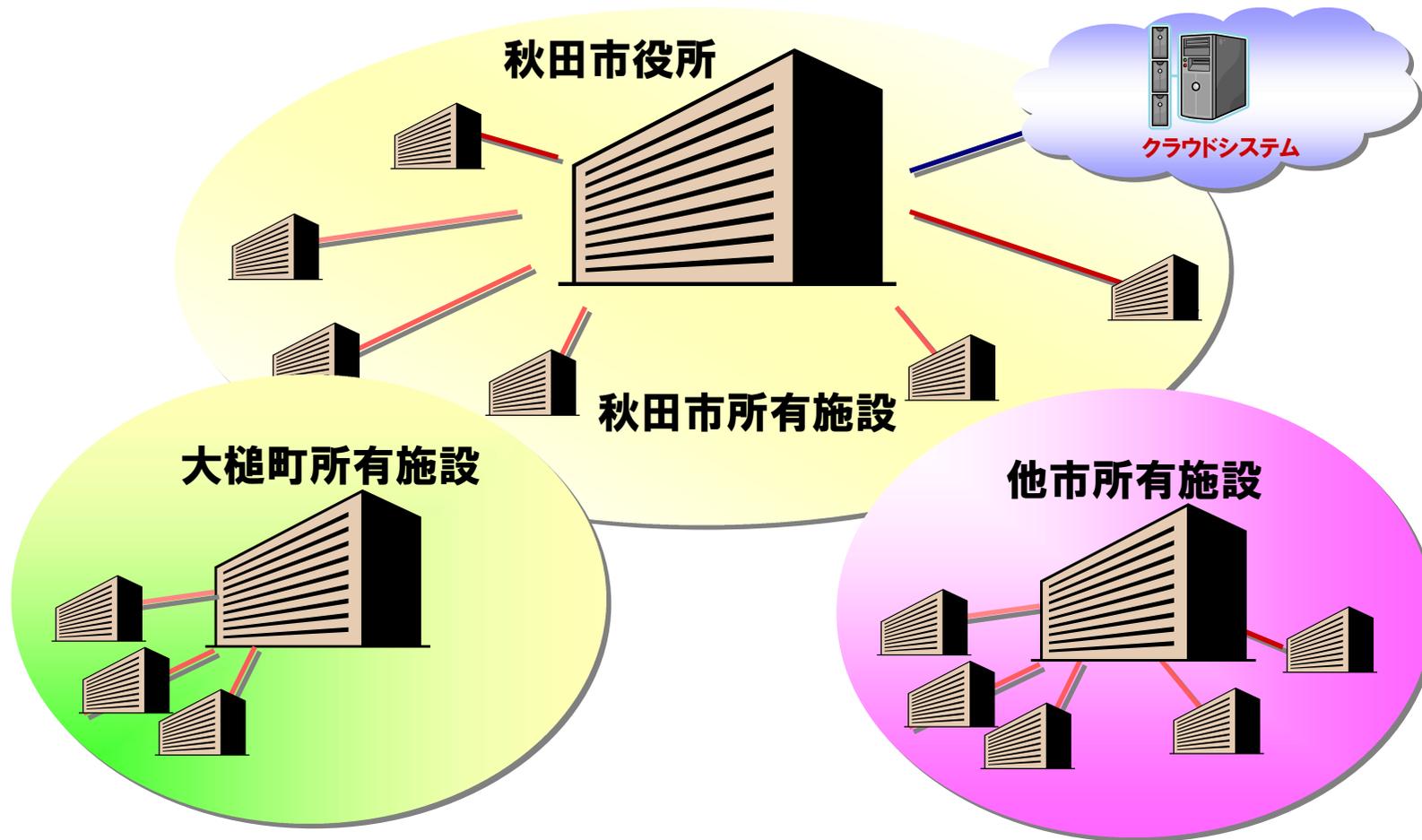
運行通知サービス

配信登録したユーザーに対し、運転手がか持っているモバイル端末からの指示によって基盤からダイレクトメールを送信する仕組み。

また、モバイル端末から送信されるGISデータを収集し、基盤上にリアルタイム経路表示・可視化する仕組み。

④ 情報統合管理基盤のシステム共同利用の検討

- ・クラウド上に配置した基盤の秋田市外からの共同利用について検討
- ・自治体向けサービスとして展開することで、参加自治体による経費按分効果を検討。



⑤ 地元企業による基盤利用の仕組みの検討

基盤の各機能を整備し、機能別の利用手順・サービス化することで、新規開発に対する難易度を下げ、基盤上で稼働するシステムの水平分業と地元企業の参画を検討。

フロントエンド： android開発企業

モバイルデバイスからデータベースまでの処理
モバイルアプリのインターフェースを開発

基盤サブシステム： Web開発企業

基盤の各機能を組み合わせて動く
庁内向けインターフェースの開発

共通機能の増設・強化：インフラ企業

各機能の処理能力増強・提供する機能強化に専念

